■7つのマテリアリティに対するリコーグループの取り組みとESG目標

Ver1.0

事業を通じた社会課題解決

マテリアリティ	2030年目標	社会課題解決と事業戦略	ESG目標 評価指標	ESG目標 2022年度目標	2022年度実績	取り組み・トピックス
"はたらく"の変革	価値を提供するすべての顧客の"はたらく"の変革に貢献	**社会課題** 持続的な発展のために、企業では、働き方変革やIT化による生産性向上、社員のはたらきがいの向上が課題となっています。 **事業戦略** デジタル技術・サービスの提供で、お客様の"はたらく"の変革を実現します。	顧客調査でのトップスコア率[*1]	30%以上	日 本：37% 欧 州：20% APAC：32% 米 州：89%	顧客調査は各地域重点顧客からの総合満足度を算出しています。調査対象・手法が地域で異なるため、地域ごとに比較する指標ではありません。 欧州では上位評価比率（「大変満足」および「満足」の割合）では60%となっています。米州ではManaged Service顧客との月次ミーティングによりきめ細かくフォローを行っていることが高い評価につながっています。
			顧客への提供価値拡充度[*2]	15%	15.5%	スクラムパッケージを2022年度8.2万本販売し、2017年度の販売開始以来、累計販売本数29万本となりました。
			DXによる価値提供スキル保有人材	IPA[*3] ITSS L3[*4] 1.5倍	1.53倍	デジタルエキスパートのスキルを可視化し、オンライン講座のグループ展開などの施策でレベルの底上げを実施。ITSSレベル3以上の人数が2020年度の1,459名から2,232名に増加しました。
生活の質の向上	3,000万人の生活基盤の向上に貢献	**社会課題** 先進国と途上国、都市と地方では、医療・教育・地域サービスの格差の解消が必要となっています。 **事業戦略** オフィスソリューションで培ってきたデジタル技術とノウハウを活かして、医療・教育・地域サービスの質の向上を支援します。	生活基盤向上貢献人数	1,000万人	1,001万人	21の自治体で路面モニタリングサービスを受注。特に県庁案件を複数受注できたことが目標達成に寄与しました。
脱炭素社会の実現	・GHGスコープ1、2の63%削減およびスコープ3の40%削減 ・使用電力の再生可能エネルギー比率50%	**社会課題** 気候変動の影響が顕著になっており、対策の強化とスピードアップが課題です。 **事業戦略** 「SBT[*5]1.5°C」目標を掲げ、自社排出のGHGの大幅削減を進め、社会全体の脱炭素に貢献する商品・ソリューションを提供します。	GHGスコープ1、2削減率 (2015年比)	30%	45.5%[*11]	国内外の省エネ活動に加えPPAを導入など、 再生可能エネルギーの積極利活用により GHGスコープ1、2を2015年比で209kt削減しました。 スコープ3は調達・輸送・使用カテゴリーで内部目標を設定し、削減活動を推進。2015年比で733kt削減しました。
			GHGスコープ3削減率 (2015年比)	20%	31.4%[*11]	
			使用電力の再生可能エネルギー比率	30%	30.2%[*11]	
循環型社会の実現	バリューチェーン全体の資源有効活用と新規資源使用率60%以下	**社会課題** 天然資源の持続的な利用を可能にするために、資源の循環利用や新規投入資源の削減の強化が課題です。 **事業戦略** 3R・プラスチック削減／代替をさらに強化し、プリント・オンデマンドの提供により、お客様の資源の効率利用に貢献します。	製品の新規資源使用率	85%以下	84.9%	2020年度に「リコーグループ製品におけるプラスチック方針」を策定し、製品・包装材における新規資源使用量の削減を推進。2023年2月発表のIMCシリーズでは再生プラスチック使用率50%を達成しました。

経営基盤の強化

マテリアリティ	社会からの要請と経営戦略	ESG目標 評価指標	ESG目標 2022年度目標	2022年度実績	取り組み・トピックス
ステークホルダーエンゲージメント	**社会からの要請** 社会の持続可能な発展のために、企業にはグローバルバリューチェーン全体のサステナビリティの強化が求められています。 **経営戦略** ビジネスパートナーとの協働を強化、自社・ビジネスパートナー・社会とWin-Win-Winの関係を構築します。	生産拠点のRBA 認証取得	主要生産6拠点完了	5拠点完了	リコーインダストリー東北、Shanghai Ricoh Digital Equipment, Ricoh Manufacturing Thailand, リコー環境事業開発センター、Ricoh Manufacturing Chinaで認証取得。当初予定していたリコーインダストリー勝田はRBA認証取得の対象外としました。
		サプライヤーの行動規範署名率	重要サプライヤーの署名完了	98%完了	対象309社中303社で署名完了しました。
		国際的セキュリティ標準	ISO/IEC[*6] NISTに基づくセキュリティ強化完了	ISO/IEC[*6] NISTに基づくセキュリティ強化完了	NIST要件監査項目11,528件中、11,527件で合格。不合格項目に関しても対応計画を策定し、改善に取り組んでいます。
		各パートナーからの評価スコア[*7]（サプライヤー、販売代理店、開発パートナー）	非開示	非開示	
		主要ESG評価のトップ評価獲得	DJSI、CDP[*8]など	DJSI：World Index CDP：Aリスト	3年連続でDJSI World Index獲得およびCDP Aリスト評価を獲得しました。
		経済産業省「デジタルトランスフォーメーション銘柄」採用	DX銘柄採用	DX銘柄2022採用	デジタルサービスの会社への変革に向けた取り組みの方向性や、生産現場におけるAI技術とデータ活用の具体策、お客様の業務現場の課題を解決する新たな価値提供を含めたリコーグループ全体の取り組みが評価されました。
共創イノベーション	**社会からの要請** 持続可能な発展のために、さまざまな産業セクターでイノベーション促進が求められています。 **経営戦略** 大学・研究機関、他企業等、パートナーとの共創を重視、社会課題解決に向けた効率的な研究・技術開発、新たな価値創出のための連携を進めます。	特許のETR[*9]（他社引用）スコア増加率（2020年度比）	20%増	20.1%増	事業戦略・技術戦略に基づく低スコア特許の棚卸と、高スコア特許の新規獲得により、ETRスコアを2021年度の7.4%増から20.1%増と順調に増加させました。
ダイバーシティ＆インクルージョン	**社会からの要請** 持続的な発展やイノベーションのために、ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現、多様性の尊重が必要になっています。 **経営戦略** 「自律型社員の活躍」を経営方針に掲げ社員の多様性を尊重、生き生きと働けるような環境を整えていきます。	RFG[*10]エンゲージメントスコア	各地域50パーセンタイル以上	日 本：54パーセンタイル 米 州：45パーセンタイル 欧 州：38パーセンタイル APAC：39パーセンタイル	各ビジネスユニット・機能別組織単位でKPIを設定し、施策展開。全地域で2020年度からスコアアップしています。 日本48%tile→54%tile 米州35%tile→45%tile 欧州21%tile→38%tile　APAC31%tile→39%tile （注）各地域によりベンチマーク対象が異なる%tileデータのため地域ごとに比較する指標ではありません
		女性管理職比率	グローバル：16.5%以上 （国内：7.0%以上）	グローバル：16.3% （国内：6.9%）	ダイバーシティ＆インクルージョンに関する目標設定・施策展開を主導する「D&Iカウンシル」を各地域で展開。2020年度からグローバル15.1%→16.3%、国内5.8%→6.9%と女性管理職比率が増加しました。

*1　トップスコア率：最も高い評価の選択率
*2　国内スクラムパッケージの顧客比率
*3　IPA：独立行政法人情報処理推進機構
*4　ITSS：IPAが定めるITスキル標準。レベル0~レベル6の7段階
*5　SBT(Science Based Targets)：　企業の温室効果ガス（GHG）削減目標が科学的な根拠と整合したものであることを認定する国際的なイニシアチブ（SBTi)

*6　ISO/IEC：International Organization for Standardization/International Electrotechnical Commission
*7　評価スコア：リコーに対する各パートナーからの評価結果
*8　CDP：気候変動など環境分野に取り組む国際NGOによる評価
*9　ETR：External Technology Relevanceの略。他社に引用された特許の多さを示すスコア
*10 RFG(Ricoh Family Group)リコーグループ
*11 ESGの実績は、GHGスコープ1、2および3と再エネ率のみ2022年9月に連結子会社化したPFUのデータを反映しています。